

トゲナベブタムシ *Aphelocheirus nawae* Nawa

【選定理由】

全国的にも近年の確実な産地はごくわずかで、本県では 1940 年代前後の古い記録があるだけで、その後正式には記録されていない。

【形態】

体長は 9～10mm。頭部、前胸背側縁は黄褐色を呈し、腹部背面は暗褐色の地色に側縁の黄褐色斑が目立つ。前胸背と腹節の側縁は後方に顕著に突出する。通常は短翅型であるが、稀に長翅型が出現する。

【分布の概要】

【県内の分布】

西尾市八ツ面、春日井市勝川橋付近（庄内川）、名古屋市昭和区石川橋付近（山崎川）の記録があり、山崎川で採集された標本だけが豊橋市自然史博物館に現存する。

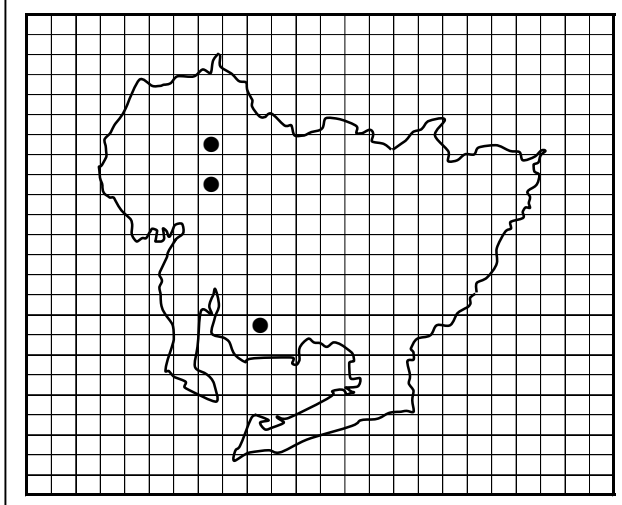
【国内の分布】

本州（東海以西）、九州。

【世界の分布】

ロシア（極東、東シベリア）、カザフスタン、北朝鮮、韓国、中国。

県内分布図



【生息地の環境／生態的特性】

平野部から丘陵地の河川で、底質が砂や細かい礫の早瀬に生息する。他県の生息地は、カワニナが多産し、淡水二枚貝やタナゴ類も豊富な環境であるが、兵庫県では改修された水路から多数の生息が確認されている（市川, 2018）。カワゲラやトビケラの幼虫など他の水生昆虫を捕食吸汁し、プラスチック呼吸により、終生水中で生活する。

【現在の生息状況／減少の要因】

かつては名古屋市内の山崎川でも多数生息していたとされるが、50 年以上確実な記録がない（長谷川, 2006）。護岸工事や生活排水の流入による河床環境及び水質の悪化が主因と考えられる。

【保全上の留意点】

現在ある自然状況に近い平野部の河川をそのまま保全することにあると考えられる。

【特記事項】

岐阜県の長良川近傍がタイプ産地である（名和, 1905）。隣接する本県は学術的にも重要な位置にあり、生息環境の詳細な調査や環境 DNA 調査といった最新の手法による再発見が望まれる。

【引用文献】

- 長谷川道明, 2006. 穂積俊文博士から寄贈された名古屋市産トゲナベブタムシの標本について. 豊橋市博研報, (16): 55-57.
市川憲平, 2018. II. 水中に住む水生半翅類の生活史と環境適応 1 コンクリート水路の絶滅危惧種・トゲナベブタムシ. 水生半翅類の生物学: 58-71. 北隆館, 東京.
名和 靖, 1905. 珍奇なる鍋蓋蟲に就て. 昆虫世界, 89: 4-7.

【関連文献】

- 林 正美・宮本正一, 2018. 半翅目 Hemiptera. 日本産水生昆虫 科・属・種への検索（第二版）: 329-427. 東海大学出版会, 神奈川.

（澤田宗一郎）